

(5)平成30年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>①生徒一人ひとりの多様な学習目標や進路希望を踏まえた学習指導を実践する。</p> <p>②自ら課題を発見し、解決するための思考力・判断力・表現力等の育成のために自ら学ぶ力を育む学習活動を実践する。</p> <p>③幅広い教養と確かな学力を身につけさせ総合力の育成を図る。</p>	<p>①授業力向上に向けた授業研究の年間計画、テーマに基づき、継続的に組織的な授業改善を図る。</p> <p>②総合的な学習の時間において生徒の主体的な学びが進むようにする。</p> <p>③講演会やテーマ別研修講座などを通して、幅広い教養を育むとともに、課題を見つけ解決する能力の伸長を図る。</p>	<p>①生徒による授業評価結果の改善や研究授業などの充実を図るとともに、プログラミングを意識した授業実践を行う。</p> <p>②工夫した年間計画と教員マニュアルを作成し、それを活用することで組織的かつ統一的な指導を行い、生徒の主体的な学びの伸長を図る。</p> <p>③アカデミックキャラバン・緑高セミナー・テーマ別研修等を通して、幅広い教養を深め、確かな学力の伸長を図る。</p>	<p>①生徒による授業評価における主体的な学びに関する結果。</p> <p>①プログラミング教育における探究活動を取り入れた指導案を作成したか。</p> <p>②生徒の主体的な学びや課題解決能力を伸ばす目的で、総合的な学習の時間の年間計画策定とマニュアル作成ができたか。</p> <p>③テーマ別研修講座数、講演会等の参加状況、満足度についてのアンケート調査。</p>
2	生徒指導・支援	<p>①部活動や行事を通して、生徒の論理的思考力・表現力・創造性を伸ばし、リーダーシップや企画力の向上を図る。</p> <p>②よりきめ細かな個別支援を実現することにより、生徒一人ひとりが安心した学校生活を送ることができるよう支援する。</p>	<p>①生徒会活動を生徒の主体的な活動の場として捉え、教員は助言指導・サポート役に徹し、生徒の能力の伸長を図る。</p> <p>②生徒の相談体制の充実を図り生徒理解に立った適切な生徒支援を行う。</p>	<p>①部長会・実行委員会を通じた生徒主体の取組を推進する。既存のやり方にとらわれず、新たな発想を尊重するとともに、実現に向けた取組を計画的に行う。</p> <p>①生徒会行事や部活動における生徒の活躍の様子を知らせるために広報の充実を図る。</p> <p>②生徒支援のために適切な情報共有や指導、対応をこころがけ、事故発生時には適切に対処する。</p>	<p>①生徒主体の部活動、行事運営が行えたか。自由な発想の元、計画の実現に向けて取組むことができたか。</p> <p>①行事の様子や部活動の活躍状況についてのホームページ等の活用状況。</p> <p>②生徒支援のために適切な情報共有や指導、対応がおこなえたか。事故発生時の対処は適切か。</p>
3	進路指導・支援	<p>生徒一人ひとりが目指す進路の実現に向けて、様々な支援や指導を実践する。</p>	<p>①生徒一人ひとりが自己の高い資質を自覚した上で、目指す進路の実現に向けて、3年間を見通した進路計画を整理し支援と指導を図る。</p>	<p>①3年間を見通したキャリア教育についてワークシート等の活用により生徒一人ひとりが各自の優れた資質をより発展・充実させ、自分の将来像を描くことができるよう支援と指導を行う。</p>	<p>①3年間を見通したキャリア教育において、ワークシート等を活用し、生徒一人ひとりに自分の将来像を描かせるとともに、高い志を立てさせることができたか。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
			②高大接続改革に向けた準備を行う。	②高大接続改革に対応するための準備・検討を行う。	②ポートフォリオを活用して自己の成長の軌跡について記録に残す指導に着手できたか。
4	地域等との協働	①地域に信頼される学校づくりを推進する。 ②後援組織である三徳会・牧陵会との連携を深め、学校教育支援体制の充実を図る。	①学校の教育活動を積極的に地域等へ公開するとともに、行事等の参加を促す。 ②後援組織との連携を深め、生徒の育成支援体制の充実を図る。	①文化祭や芸術教科発表会などの行事の公開やHPを通じ、本校への理解を促す。 ①避難訓練への参加を促し、生徒・地域との交流、協働を企てる。 ②緑高セミナーを中心とした講演会等において、後援会組織の人材などの活用を図る。	①公開行事への参加状況およびアンケート調査結果。 ①新ホームページの活用状況。 ①避難訓練における地域の方の参加状況。 ②後援組織の人材活用等、新たな支援体制の活用・充実について推進できたか。
5	学校管理 学校運営	①全職員が参画し、組織的・機動的な学校運営体制を推進する。 ②生徒・保護者に信頼される学校を維持するために事故不祥事防止に努める。	①職員の意見交換の場としての「緑の意見交換会」を定期的を実施し、全職員が参画する運営体制を活性化させる ②日常的に事故不祥事防止に努めるよう職員間の声掛けを実践する。	①興味深いテーマ設定をしたうえで職員が参加しやすい日時に「意見交換会」を実施し、意見交換を行い学校運営になるべく反映させる。 ②研修をとおして、日常的に事故不祥事防止に努めるようにする。	①複数回開催することができたか。①問題意識の共有化が図れたか。 ②月に一度、研修を開催することができたか。 ②職員間の声掛けを実践することができたか。